

甘い言葉にご用心



る。安保関係の用語は、まず名称から疑ってかからねば本質を見失う」と書かれています。

「しんぶん赤旗」は政府の言葉をわかりやすく本質を突く言葉にします。たとえば「防衛費」は「軍事費」に、「普天間飛行場」は「普天間基地」のように書きます。

本紙地方版「西日本のページ」(12日付)で赤嶺政賢衆院議員の「随想」に「政府は法案の本質をごまかすために正反対の名前を巧みに言い換え

いまの国会で審議中の「防衛産業強化法案」は「軍需産業支援法案」、

防衛財源法案成立に照準

政府・与党

軍拡財源法案に“待った”

「軍事企業国有化」残る懸念

防衛産業強化法案 衆院通過

軍需産業支援法案

産業軍事化いっそう推進

「しんぶん赤旗」 「東京新聞」

「しんぶん赤旗」 「読売新聞」

「防衛費財源確保法案」は「軍拡財源法案」などと書きます。

これは安保関係に限りません。「GX脱炭素電源法案」なんて何のことかわかりません。名称は「脱炭素社会の実現に向けた電気供給体制の確立を図るための電気事業法等の一部を改正する法律案」で、ますますわかりません。「赤旗」はズバリ「原発推進法案」です。

そういえば政府は昔から、「戦争」なのに「満州事変」と言ったり、「撤退」を「転進」、「全滅」を「玉砕」のように使ったりしてきました。最近では「敵基地攻撃能力」と言っていたのを「反撃能力」と言い換えています。

昔も今も、政府の甘い言葉には、くれぐれもご用心を。(河邑哲也)